



～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2011 年 夏 号
第 67 号



光雲荘
(松下幸之助氏 元私邸)

目 次

■ 平成 23 年度女性委員会について	藤山久仁子 1 ページ
■ 最近の仕事から ある住宅の計画で考えたこと	岩城由里子 2 ページ
■ 女性委員会見学会 「木を知る旅」に参加して	瓶割 環 3 ページ
■ 光雲荘 職人の心意気	武市啓子 4 ページ
■ 2011 年東日本大震災 被災地視察報告	宮崎眞友美 5 ページ
■ 今後の事業予定	9 ページ

平成 23 年度女性委員会について

会員の皆様には 日頃、(社)奈良県建築士会女性委員会活動に多大なご協力をいただき心より感謝いたします。お蔭様を持ちまして平成 22 年度の大きなイベントでありました「**平城遷都 1300 年祭記念事業**」及び「**近畿建築士協議会合同見学会 奈良担当**」も大過無く終了することが出来ました。有難うございました。

さて、本年度は平成 3 年 3 月に初代女性委員会西尾委員長を中心に女性建築士 **32** 名 で発足した女性委員会の活動が 20 年目を迎えることになりました。これまでに携わって下さった女性委員会委員の方々が積み重ねてこられた努力に敬意を表すると共に、改めて厚く感謝とお礼を申し上げます。

現在の所属女性建築士は 87 名となり、意匠・構造・設備などの設計や工事自体に携わっておられる方や各メーカーに所属されている方、また育児や家事で今は一線から離れている方など様々です。しかし女性同士気軽に話し合える環境はきっと皆様の大きな力になると考えます。

これまでの様々な活動の基本は それぞれの「こんなときどうするの?」「誰に相談したら?」「どんな資料があるの?」といった小さな疑問や質問であつたと思います。一人では解決できないことも皆で考えたり調べたりこれこそが女性委員会発足の理由であり、本誌【フープ】の名称 みんなの輪の由来です。

23 年度女性委員会は

- ・「茶室部会」では、これまでに発刊された【大和茶室探訪Ⅰ、Ⅱ】に続いて調査中の民間茶室を追録版として纏める。

- ・「ユニバーサル部会」では、会員の皆さんへの意識調査を行い今後の活動方向の見直しとユニバーサルデザインの問題点を考える。

- ・「研修部会」では、見学研修会の企画を行う。という予定で 3 部会がそれぞれに皆様に参加していただける活動を企画、展開して行きます。

これらの活動は会員の誰でもが参加出来る活動です。興味のある方は是非ご参加ください。事務局に連絡いただければ詳細をお知らせいたします。

また、前にも述べました 20 周年にあたり、11 月 13 日(日)に記念事業を企画中です。

《「へっついさん」で大和の食事をつくろう》

と題してシステムキッチンに慣れ親しんだ今、50 年前の台所「へっついさん」を体験してその変遷を考えるという企画です。

まだまだ、皆さんのご意見や御希望で女性委員会ならではの事業を計画して行きたいとも考えております。個人的にはなかなか拝見できない所も見られたりして・・・！！

女性委員会は会員全員の意見で活動をして行く委員会です。しかし会員の皆様にその内容が十分に伝わっていないのが実情のようです。そしてその反対に、会員の皆さん各々の意見や要望・事業等に出られない方々の質問や疑問などが委員会役員に伝わってこないのです。

そこで、本年度には皆様に迅速に情報提供でき、会員相互の意見交換の出来るシステム作りもしていきたいと考えております。

今後、活動への御意見やメーリングリストへの参加希望・情報の発信方法などのアンケートを送付する予定です。

皆で活発な活動を展開し、少しでも会員それぞれの役に立つ委員会にするために、御協力をよろしくお願いいたします。

女性委員長 藤山 久仁子

最近の仕事から

ある住宅の計画で考えたこと

岩城 由里子

現在計画中の住まいは、30代の夫婦と小学生のお子さん（2人）の住まいです。築30数年の木造住宅にお住まいで、改築か建て替えかという相談を受けました。既存の建物は、元々幼なじみが住んでいた家なので思い入れがあるとお聞きしており、出来るだけ改修工事と考えようと思いました。現地調査で基礎や小屋裏の状況、建物の傾き具合を確認しましたが、脆くなっている部分が多く視られ、使われている材料も華奢で同年代に建てられた住宅としては、あまりしっかりと作られたものではありませんでした。今回の大改修で今後30年、40年も持たせるためには基礎の補強だけでなく屋根も下地からやり直さないと判断しました。構造の補強のことだけでなく、家族の暮らしに合わせた間取りの変更も難を極める部分が多くありました。調査の結果をふまえてお施主さんに報告したところ、建て替えをすることを決断されました。

改修にせよ新築にせよ、このご家族の住まいのテーマはご夫婦が高校教師をされていることにありました。学生時代からの友人が高校教師になり教師同士で結婚したのですが、日々の暮らしの状況を聞いていると普通の家庭の暮らしとは全く違いました。夫婦で家に仕事を持って帰るので書斎のようなスペースが必要な事、家事も子育ても夫婦で平等に分担すること、日中家に居ない分、子どもとの触れ合いを積極的にとっていくことなど、教師夫婦ならではの苦労話をよく聞いていました。

設計するに当たりご家族の希望を聞き、まずは仕事の出来る書斎、そして子供の居場所をちりばめる事、家事がし易く家全体を家族みんなで使えるようにする事を考えました。

外観模型



学校から持ち帰った仕事を広げたままに出来るワークスペースを居間兼食堂のとなりにセミオープンで設けました。子どもが勉強するのもこの空間で良いだろうと思い「家族のデスクスペース」にしました。

家族全員が揃う時間が短い事、日中は姉弟だけの時間が多いことをふまえ2階と1階を吹き抜けでつなぎ、どこに居ても家族の気配がわかるようにしました。子どもというのは、自分の部屋にじっとしているわけではなく、どこにいても荷物を広げ上手に心地よい住処をつくります。キチキチと間取りを区分けせず、ゆるいつながりのある間で居場所をつくりたいと思い、吹き抜けの上に3畳の和室「ゴロゴロスペース」をつくりました。障子をあけると下階と一体空間になる第2の居間のような場所です。下でお姉ちゃんが友達と宿題をし、吹き抜け上のゴロゴロスペースでは弟がマンガを読む、そんな午後のひと時を想像しました。取り込んだばかりのお日様の匂いのする布団の上でゴロゴロするのも、子どもにとっては幸せな時間になるでしょう。30坪の家ですが、居間兼食堂を中心に各空間が何段階かのヒエラルキーでつながりを持つようにしています。

この住まいの設計では平面上の南北・東西の風の流れ以外に、吹き抜けで発生する上下の空気の流れをデザインする事が楽しみでもありました。最近では南側の屋根にも設置できる遮熱性の高いトップライトもあり（VELUX 製）空気の道づくりはいろんな手法が可能になってきていますので、空気の道をデザインするのはとても楽しい事だと思っています。そんな中、計画の途中でパッシブソーラー設備の設置を検討することになり、設計上の留意点や施工の注意点、付随する材料選びについても勉強しました。パッシブソーラー独自の空気の道の設計があり大変魅力的です。現在、実施設計が終わり見積り段階です。

模型内部
分解したところ



女性委員会見学会

『木を知る旅』に参加して

瓶割 環

平成23年3月26日(土)、和歌山県田辺市にある、植林から製材・プレカットに至るまで一貫して事業を行われている山長商店を訪ねる見学会に参加しました。私の携わっている仕事といえば、殆どが木造の一般住宅にもかかわらず、恥ずかしながら「木」についてどれだけの事を知っているかと言えば・・・？なのでこの見学会の案内を頂いた時に、是非参加したいと思いました。朝は早く辛かったのですが、とてもワクワクした気持ちでバスに乗り込みました。

約3時間かけて山長商店に到着後、まずは山長商店様所有の山林見学ツアーに出かけました。山の管理者で山長林業の松本氏から、日本の林業について、木の性質・成長の仕方等、詳しくご説明頂きました。実際に山を歩きながらの説明でとてもわかりやすく、一つ一つの言葉から、本当に「木」の事が好きで仕事をされているという事が伝わってきました。第一次産業の中でも、林業の一サイクル（造林をしてから間伐に至るまで）は60年と、とても長い時間を要します。その長い年月の中で、下刈りや除伐など大変な苦勞があります。「木」の家で心が温かくなったり落ち着いたりするのは、そういう長年にわたる人の思いと自然の力が宿っているからなのでしょう。そんな気がしました。その他にも、柱に反りや曲がりを防ぐ為に施されている「背割り」というのは、木が山に生えている状態で、斜面に対して谷側が「背」、山側が「腹」という基準で施す面が決められている事（木が大きくなるにつれて、山裾側に重力がかかるのに対して木自身におおきな応力が働く）等、断片的な知識であったものも詳しく説明して頂き、大変勉強になりました。

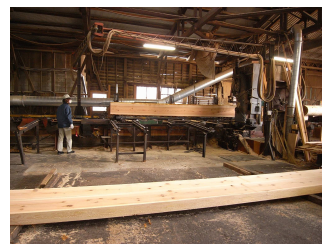


昼食は山でお弁当を食べるという予定でしたので、

好天の空の下気持ちよくお弁当を食べられるのを楽しみにしていたのですが、あいにく前日までの暖かさは打って変わって冷たい風にさらされてしまい、結局マイクロバスの中で震えながらお弁当を食べました。・・・これだけはとても残念でした・・・。

山林見学後は会社の方に戻り、製材所の見学をさせて頂きました。

製材、乾燥、強度検査、選別、プレカットの全工程を、榎本常務の説明を受けながら見学させて頂きました。大きな工場での製材＝機械の仕事という風に単純に考えていた自分が恥ずかしくなりました。どの工程でも、最後は人の目と技術で出来上がっているという事を目の当たりにしました。一本一本の木の性質を見極めながら使う場所を判断したり、美しく見える方向までも、一本一本に印されているのには驚きました。材木を大事に思われている気持ちと、大きな誠意を感じました。



山長商店の杉平角材はJAS製品で、国産平角材としては日本で初めて取得されたそうです。杉の強度という面から考えると、集成材の方が優れているという先入観もありましたが、同等若しくはそれ以上という事が、強度検査からも確認されていました。杉の無垢材を横架材に使う事があまりなかったのですが、あの年輪の詰まった目込みのいい感じを実際に見ると、どうしても使いたくなってしまいました。

（実物は本当に美しかったです！！）せっかくこんなに多くの自然の財産を持った国に生まれたのだから、これからどんどん紀州材のような国産材を使った計画ができればいいなと思っています。

今回の見学会のテーマであった、「木使いの為の気遣い」を知る」という事。とても深いテーマだったと思います。木を使う私たちが知っておかないといけない事はたくさんあって、知っていないとできない木の使い方をしていけないといけなと感じました。

光雲荘

職人の心意気

武市 啓子

5月19日(木) 今日暑くなりそう、という天気の中、元気いっぱいの女性委員会のメンバー15名が大阪府枚方市のパナソニック人材研修センター内にある、パナソニック創業者松下幸之助氏の元私邸である光雲荘(非公開)の見学会へと出かけました。光雲荘(昭和12年着工14年竣工)は、「三百年後の遺構(三百年先において、代表的な日本建築として残るものを建てたい。)」という松下幸之助氏の希望により建てられました。その当時、珍しい建築コンペも行われ、首席には、欧風建築の案もありましたが、実際に建築されたのは、桃山時代の建築様式「書院造り」の中にホールや談話室などの洋間を取り入れた和洋折衷の建築群です。大広間、仏間(格天井)、廊下、欄間も趣向が凝らされており、食堂のアールデコの照明器具も自らデザインされ、サイドライトなど、やわらかい光が印象的でした。しかし、この建築がすごいのは、元々西宮に建築されており、阪神淡路大震災にあって(大広間の一部損壊、茶室損壊)、その後この枚方の地に移築されたという事実です。建築当時珍しいマットスラブの基礎の上に建築されていたためか、大震災もまぬがれて、築70年後の2008年に、枚方に移築された時の再生率は、柱梁97%、床板、建具などは100%、瓦60%となっています。当時の、職人が最高の技術力と最高の素材を使って建てられたからでしょう。300年後も代表的な日本建築物として、残したいという松下幸之助氏の思いを感じて造った成果なのだと思います。また、経済人としての松下幸之助氏は、「今後三百年も先には、この当時の日本建築というものが、いろいろな形において、吟味されたり参考にされたりすることがあるだろう。そのときに、じゅうぶん参考に供されるような建物を建てておきたい。そういうものを建てておくことが、建てえられる者としての一つの行き方ではないか。」と書いています。経済人としての度量の深さも、感じました。「光雲荘」見学のあとは、枚方宿「鍵屋資料館」にて、美味しく昼食をいただき、淀川を行き

来した三十石船の船待ちの宿で、江戸時代当時の賑やかさを思いつつ、枚方を後にしました。晴天に恵まれ、身も心も満腹になった見学会でした。



庭園から眺めた大広間



談話室外観

2011 年東日本大震災 被災地視察報告 ―震災からおおよそ 4 ヶ月―

～奥州行脚 梅雨の旅～

(視察日)2011 年 7 月 3 日(日)～5 日(火)

(参加者) 上田 壽子・本保万貴子・安田千鶴代・宮崎眞友美

■ はじめに

2011 年(平成 23 年) 3 月 11 日 14 時 46 分、我が国の観測史上最大となる M9.0 の「東日本大震災」が発生し、宮城県栗原市で震度 7 が観測されたほか、岩手県から茨木県にかけての太平洋岸の広い範囲で震度 6 強や 6 弱の揺れが記録された。この地震による巨大津波により 3 万人近くの死者・行方不明者を生じる大災害となりました。この地震の犠牲者に深く哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

■ 7 月 3 日(日) 福島県内の主要被災地視察

06:55 西大寺駅発 京都行き急行

07:04 京都駅発 新幹線のぞみ 212 号、

10:41 東京駅発 新幹線マックやまびこ 25 号

12:41 福島駅に到着。

ここからはレンタカーに乗り込み福島県相馬市へ向かう。福島県内の死者行方不明者は合計 1,954 名、全壊家屋 15,897 件のうち、相馬市はそれぞれ 459 名、1,038 件と被害の大きかったところ。

13:00 福島駅を出発(車移動)。奥州街道(国道 4 号線)から中村街道(国道 115 号線)へと入り約 55 km 先の相馬市海岸付近を目指す。途中、棟瓦にブルーシートが掛けられている建物もあるが、まだ数えられるほど。14:15 県道 38 号線に入る。辺りは一変した。道路沿いに漁船があったり、田んぼの中に車がいたり、線路が浮き上がった状態であったりと、津波の被害が顕著である。臭いもすこし変だ。38 号線は海岸付近までくると亘理に向かって北上している。新地辺りで海岸沿いを北上しようと試みるが少し行くとやはり通行止。もちろん、カーナビも当てにならず、道なき道を行く。この辺りまで来ると残っているのは基礎や土台のみで、瓦礫の山が点在し、かなりきつい臭いがする。壊滅状態のこの光景は相当ショックだった。今まで賑やかだった車中は重苦

しい空気となる。



宮城県に入り、さらに、国道 6 号線を北上する。宮城県内の死者行方不明者は、合計 13,833 名、全壊家屋 65,462 件とこの震災で最大の被害を受けたところである。亘理町、仙台空港も壊滅的状況。山裾の津波が到達したところの木は線を引きいたように枯れている。さらに北上し、仙台市内に到着。上田副会長のご友人である宮城県建築士会の小原様、星様と待ち合わせのため、折立地区へ。

16:30 折立地区到着。

16:45 仙台の小原様、星様と合流。星様のご説明で折立地区を視察。折立団地は昭和 40 年後半に造成された団地で、456 世帯のうち本震で崩壊の可能性がある「危険」と判定された家屋が 69 戸あり、「要注」は 115 戸ある。仙台市は震災後、約 40 戸を災害対策基本法に基づいて、立入を制限する「警戒区域」

に指定した。しかし退去をしていない人々が多いという。この区域は隆起、崩壊が進み、道路側の擁壁の崩壊も進み、傾いた家、歪んだ家、波打った家などが多数ある。盛土部分に被害が集中しているとのこと。地盤の重要性を再認識した。

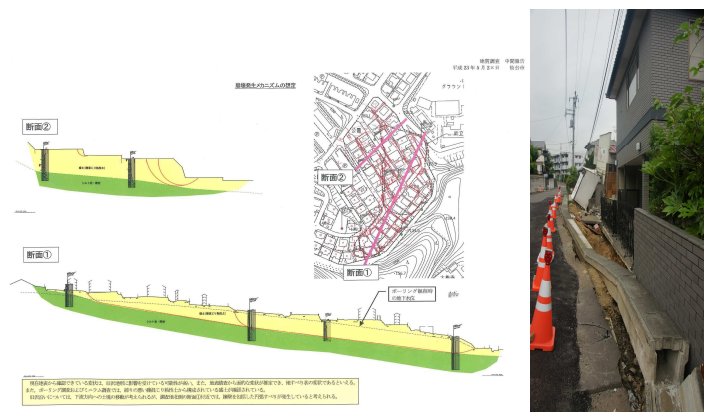


図 盛土(黄色)を示す断面形状

18:15 お二人とは一旦現地で別れる。(汗を流してから食事にしましようとお気遣い) 18:45 仙台市内のホテルへチェックイン後、急いで温泉に入り、19:30 ホテルロビーでお二人と再会。19:45 歩いて地元食材の和食店で食事。当時の事、お仕事の事、ご家族の事、話は尽きない。その後、ホテルロビーにて、1日も早い復興を願ってのお別れとなった。

◇ —1日目の走行距離 148 km—◇

■ 7月4日(月) 宮城県内と岩手県内の主要被災地視察

6:00 起床 6:30 温泉へ
7:00 朝食。 7:30 ホテルを出発。(車移動)

8:30 日本三景松島に到着。意外にも松島海岸は津波被害は見当たらず。桂島などの島々が自然防波堤役割を果たしてくれたのか。後日、調べると牡蠣の養殖は全滅だったとのこと。続いて、奥松島へ。ここでは一転、顕著な津波被害あり。避難場所の野蒜小学校は2階まで津波が押寄せた。東名から野蒜までは運河があり、海から遠くないので直接津波が来た可能性も否定できないが、運河に沿って津波が遡上して溢れたという可能性も考えられる。

10:15 北上川に架かる国道398号線の橋が通行止。迂回のため県道30号線を北上川沿いに走行し、国道45号線の橋を通過しそのまま北上する。前方全面通行止(南三陸へはいけません)の看板。迂回のため引き返し近くのコンビニで道を聞く。12:10 道の駅津山に到着。食事休憩。

13:10 出発。45号線を東へ進む

13:25 志津川付近の惨状を目の当たりにする。この地域は、リアス式海岸(ギザギザ地形)であるため、湾内は急速に水かさが増し、そのうえ三陸沖の海底は平らな大陸棚であるため津波のエネルギー損失が少ないため被害が出やすかったとのこと。





行き交う車の中に災害派遣というプレートをつけた自衛隊の車両が増え始める。ここかしこに、がれきの山。自動車の残骸。そして、骨組みだけになった建物。空洞になった3階建ての建物の屋上にはあるはずのない乗用車が鎮座する。南三陸町という町全体が、根こそぎ津波にのみこまれ、一瞬にして跡形もなく消えてしまったという感じだった。そして、気仙沼も。15:00 陸前高田市に入る。岩手県内の死者行方不明者は、合計6,942名、全壊家屋20,998件のうち、陸前高田市はそれぞれ2,069名、3,159件である。やはり、壊滅状態だった。波に押し潰され、放置された自動車もいたるところに無残な姿を晒していたり、中がむき出しになった電信柱が倒れていたたりもする。一面焼け野原のような惨状だった。ここから45号線の海岸沿いを北上する予定だったが、宿泊先への距離、夜間の迂回の危険性などを考慮し、海岸沿いを通るルートを変更し、国道340号線で北上し、遠野を目指す。16:30 遠野着。ガソリンを入れ、すぐそばのカッパ淵へ足を伸ばす。足早にカッパ淵を散策し、常堅寺で1日も早い復興をお祈りし遠野を後に。釜石自動車道を目指し国道283号線を西へ。釜石自動車道花巻JCT

から東北自動車道で盛岡へ。

18:25 紫波(しわ)SAで休憩。18:50 盛岡南ICで降り、19:30 ホテルそばの料理店で地元食材を頂く。22:00 ホテルへ。

◇—2日目の走行距離 356 km—◇

■ 7月5日(火) 岩手県内の主要被災地視察

6:00 起床 7:00 朝食 7:40 ホテル出発(車移動)岩手県宮古市浄土ヶ浜へ向かう。宮古市内の死者行方不明者は合計599名、全壊家屋3,669件である。国道106号線をひたすら東へ。のどかな山里の風景が広がる。途中、区界道の駅、やまびこ館などに立ち寄り休憩と地元産物を購入。

10:10 宮古湾着。壊滅状態。10:15 浄土ヶ浜ビジターセンター着。BIFまで津波が来たとのこと。遊歩道橋が無残にも砂浜に落ちていた。

宮古市田老町は過去数十回の津波被害を受けており、「津波太郎」の異名をもっている。1978年には総延長2,433m、T.P. +10.0mの、いわゆる「田老万里の長城」が完成した。しかし、今回の津波は、この巨大防潮堤を乗り越え、甚大な被害を出した。はたして津波から人を守る対策はあるのだろうか。さらに、

45号線を北上し、新幹線の乗車駅八戸を目指す。途中、道の駅たろう、道の駅田野畑村、そして塩べこの駅で休憩。久慈を目指す。

12:55 久慈市内で回転寿司を大急ぎで食べる。

13:55 青森県に入る。16:06 八戸駅発 新幹線
はやて134号 20:04 東京駅着

20:20 東京駅発 新幹線のぞみ263号

22:41 京都駅着 22:50 京都駅発 特急

23:20 西大寺駅着 解散。

◇—3日目の走行距離 264 km—◇

◇◆—3日間の総走行距離 768 km—◆◇

(列車移動は除く)



■ まとめ

今回の震災は地震被害をはるかに超えて、津波被害が顕著であると感じた。この地域の地震対策はかなり進んでいたように思われる。瓦屋根も少ない。だが、津波被害を出さない方法はあるのだろうか。また、途中、自衛隊やボランティアの方々の手作業での瓦礫の撤去を目にする。感謝の一言に尽きる。しかし、本当にこの町は復興できるのか。現実を目の当たりにすると、言葉が出ない。これだけ広範囲の被災から起き上がるのにはどのくらいの時間がかかるのか。産業を回復させ、雇用を生み出すことは可能なのだろうか。復興へ道のりは、長い。国が、国民ひとり一人が、そして建築士が何をすべきかは、これから問われる。風化させないように。私の人生にとって大変貴重な3日間となりました。



(撮影：本保万貴子)

(記事：宮崎眞友美)

■ ご紹介

「がんばろう東北」宮城県建築士会ステッカー
東日本大震災で、宮城士会ではオリジナルのステッカーを作成。
<http://kenchikushikai.net/uploads/OneHeart.pdf>



このステッカーのデザインは、オレンジ色の朝日に復興した街並みが浮かび上がっているイメージを表しています。

今後の事業予定

平成 23 年

- 8 月 25 日 (木)
第 2 回 1 級・2 級・木造建築士定期講習
(奈良県産業会館)
- 8 月 27 日 (土) ～28 日 (日)
二級建築士製図講習会
- 9 月 11 日 (日)
二級建築士試験「設計製図」 (畿央大学)
- 10 月 9 日 (日)
一級・木造建築士試験「設計製図」 (畿央大学)
- 11 月 13 日 (日)
女性委員会 20 周年記念イベント
『「へっついさん」で大和の食事をつくろう』
(奈良県立大和民俗公園)
- 11 月 17 日 (木)
理事会 (社会福祉総合センター)
- 11 月 24 日 (木)
第 3 回 1 級・2 級・木造建築士定期講習
(春日野荘)

■ ～お礼～

岩城由里子様の「最近の仕事から」シリーズは、
今回で最終回となりました。
岩城様 大変ご多忙の中永らくのご寄稿ありがとうございました。

～新シリーズ「私と建築」スタートのお知らせ～

皆様いつもフープに様々なご協力ありがとうございます。

さて、この度「私と建築」という新シリーズをスタートさせていただきたいと計画しております。

「建築に興味を持ったきっかけはなんですか？」

「こんなきっかけで建築の仕事につくことになりました。」

「私と建築のしごと近況報告」「建築に関する苦労話や失敗談」などなど。

私自身、フープを読んだり、皆様のお話やその活動を見聞きし、励まされ勉強になり又刺激をいただいております。「建築士会名簿 50 音で記事を頂きたいと思います。」

このシリーズで女性建築士同士の心の交流も深まるのではと思います。ご多忙とは思いますが、フープにどうぞご協力をお願いいたします。

又、ご意見・ご要望がありましたら、お知らせくださいませ。

よろしくお願い致します。 (前田晴子)

～編集後記～

今年度フープを新たに担当させていただくことになりました平島です。

前年から引き続き担当の前田さんに教わりながら 編集というなれない事ですが努力していきたいと思います。皆様ご指導どうぞよろしくお願い致します。

今年は奈良県建築士会 女性委員会が 20 周年を迎え 記念イベントも予定されております。

女性建築士の輪も広がり 充実した 1 年になりそうです。 (平島朋子)